



一般財団法人 竹田健康財団

竹田綜合病院

TAKEDA general hospital Department of Pharmacy

薬剤部

入職した薬剤師が満足できる職場にする
各々のキャリアデザインを考える職場



病院概要

竹田綜合病院は昭和3年開院、昭和10年に病院となり、昭和25年に財団法人となりました。本院は会津地域の基幹病院として、常に先端医療を率先実施しつつ地域に密着して発展してきました。重症、専門、救急医療の総合診療を図ってきましたが、今後はそれらも包括し、経営理念・病院の使命に沿った広範なヘルスケアサービスを地域に提供していきます。



許可病床数

837床（一般693床、精神科144床）

患者数（2023年度）

1日平均

入院 598人

外来（病院） 1,112人

〃（クリニック） 246人

常勤職員数（2024年4月）

2,168名

附属施設

山鹿クリニック
芦ノ牧温泉病院
介護老人保健施設エミネンス芦ノ牧
訪問看護ステーション
竹田看護専門学校 など

診療科

30科

内科、リウマチ科、循環器内科、消化器内科
脳神経内科、呼吸器内科、呼吸器外科、小児科
外科、大腸・肛門外科、小児外科、内視鏡外科
整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科
皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
頭頸部外科、リハビリテーション科、精神科
放射線科、放射線治療科 麻酔科、歯科
病理診断科、緩和ケア内科

指定・認定

地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院
地域周産期母子医療センター
地域リハビリテーション広域支援センター
（財）日本医療機能評価機構認定施設
臨床研修指定病院
労災保険指定医療機関病院
結核予防法医療指定病院
福島DMAT指定病院 など

薬剤部概要



薬剤科長挨拶

私たちと一緒に、患者中心のケアを追求し、自己実現と患者の幸せを共に目指しませんか？

当院薬剤部では、患者にどのように寄り添うかを最も大切にしており、そのための研修を行っています。患者への共感、患者を想う自身の気持ち（心）を育てる事が必要であり、薬剤師はこの共感力を育て、患者の病気に向き合う力を向上させるためにどうすればよいのかを探ることが重要です。

さらに、薬剤師一人ひとりが自己実現を達成できるよう、専門性を深化させるためのキャリアパスを提供しています。新人薬剤師からベテランまで、各々のスキルや経験に合わせた独自のキャリア形成を支援し、定期的な研修や学会を通じて、自己成長を続けられるよう努めています。薬剤師が自分の可能性を最大限に引き出し、その才能を発揮できる職場を提供し、薬剤師の成長が患者の幸せに寄与すると信じています。

私たちは常に患者のために、最善の医療を提供することを目指しています。薬剤師の熱意が、患者の未来をより良いものにします。共に成長し、共に歩んでいきましょう。



薬剤科長
木本 真司



薬剤科長
齋藤 隆介

職員（2025年3月現在）

薬剤師	25名
調剤助手 （ファーマクルー）	31名
事務員	1名

業務実績（2023年度平均）

処方箋枚数	外来（院内）	7枚/日
	（院外）	425枚/日
	入院（一般）	334枚/日
	（注射）	278枚/日
薬剤管理指導算定		516件/月
抗悪性腫瘍薬調製		516件/月
薬剤師外来		583件/月

出身校

奥羽大	昭和大
東京薬科大	東京理科大
東北医科薬科大	新潟薬科大
日本薬科大	北陸大
星薬科大	明治薬科大
	など

薬学生実務実習受け入れ

	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	計
2020年度	2名	5名	2名	9名
2021年度	2名	2名	3名	7名
2022年度	2名	4名	1名	7名
2023年度	3名	3名	1名	7名
2024年度	1名	4名	3名	8名

薬剤師の育成

キャリアイメージ



当院薬剤師は業務実績によりクラス分けされており、給与規定とも結び付いています。

クラスアップを目指すことが薬剤師としての実力を向上させる道しるべとなる仕組みであり、自身の理想像を目指せるようキャリアデザインを支援する職場となっています。

ライフステージに合わせた働き方

職務と同等に、家庭における役割も大切にしなければなりません。子育て世代の宿直業務の免除、定時帰宅の保障、**男性育休の取得**など、働きやすい環境を整えています。どんなライフステージのスタッフでも心地よく働ける職場を目指しています。

新人教育

プリセプター・メンター制度

薬剤部全体で新人薬剤師に関わりながら教育していきます。特に、4～5年目がプリセプターとなり、業務修得のサポートを行います。理解が十分でない部分に関しては常にマンツーマンでの指導体制が整っており、確認リストなどで定期的に習得度を確認し合います。また、2～3年目がメンターとなり、精神的なサポートを行います。

先輩薬剤師も、新人教育に関わることで自覚や責任が芽生えるだけでなく、問題解決能力アップにもつながっています。



1年目薬剤師の声

慣れない環境の中でも、メンターやプリセプターがいてくれたおかげで、質問や相談ができる相手が明確であるということは安心感がありました。私生活での悩みにも寄り添ってくれるので、メンターと話すことでちょっとした気分転換にもなっています。

ある新人薬剤師の1年

研修スケジュール

病院薬剤師としての知識や技能、態度を習得することを目標とし、分野ごとに担当者を分けて指導を行います。
ローテーションで各部署の業務を研修し、ジェネラリストの育成を目指します。また、**3年で日病薬病院薬学認定薬剤師を取得**できるよう薬剤部全体でサポートしています。

目指せ！

**日病薬病院薬学認定薬剤師
認定・専門薬剤師**

Level up!

DI、製剤、麻薬、感染 など

遅番・宿直研修 業務開始

病棟業務、外来化学療法・緩和ケア

チーム配属 / OJT

日直研修 業務開始

ECAM、内服・注射調剤業務、ミキシング、持参薬確認

新入職員研修

1年目

2年目・3年目



■新入職員研修

全新入職員対象の研修で、医療人としての理解を深める場となっています。また、多職種での繋がりを持つことができます。

■ECAM

新人薬剤師教育に『ECAMモデル』を取り入れています。ECAMの構成要素はEmpathy（共感）、Communication（コミュニケーション）、Assertiveness（想いを表現できる）、Medical Literacy（情報の収集/理解/吟味/適用）であり、その4要素をどのように使って患者に寄り添っていくかを学びます。

■日直・宿直業務

病院休診日の日直業務と、毎日の宿直業務を行っています。宿直は16:20から深夜0時までで、0時以降は仮眠可能です。仮眠時間帯は薬品払い出しがある場合のみ対応し、翌朝8:50で終了となります。夜間救急外来の処方箋は24時間体制で近隣の調剤薬局が院外処方を応需しているため、当院の宿直において救急外来の処方調剤業務はありません。

■チーム配属

自分が希望する診療科の担当に必ずなることができます。7月をめどに配属先を決めますが、薬剤師自身の希望を100%優先させているため、将来のキャリア形成を視野に入れて日々業務に励むことができます。

■病棟業務

生活習慣病、消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、精神疾患、感染制御、妊婦・授乳婦、小児科、NICU、がん化学療法など様々な領域に関わり、病棟業務を行います。研修では、様々な分野の認定薬剤師から幅広い薬学的知識を学ぶことができます。また、興味のある分野の認定・専門薬剤師など資格取得を目指すことができます。

■外来化学療法・緩和ケア

薬剤師外来やPBPM、患者アプリ等を活用しながら、がん化学療法のレジメン提案、副作用対策、疼痛評価およびコントロールについて実践的に学びます。他の研修で学んだスキルも活かし、実際のがん患者にどう寄り添うかも真剣に考えながら研修期間を過ごします。

新人薬剤師の1日

病棟チームの研修

朝礼

8:20

処方監査業務

8:30

面談予定患者について
カルテで情報収集

9:00

初回面談・退院指導
薬剤管理指導業務

10:00

患者と直接話すことで薬物治療の効果の確認や副作用の早期発見につなげることができました

昼休憩

12:30

持参薬鑑定
内服・注射調剤の検閲

13:30

調剤室の掃除
1日の振り返り

16:00

日勤業務終了

17:00

緑川 琴乃

2024年入職
奥羽大学 卒
福島県中島村 出身



所属チームの業務を行いながら、日病薬病院薬学認定薬剤師の取得に向けて各部署での研修も行っています。その後、認定取得へ向けて自分が極めたい専門領域の業務を中心に経験を積んでいきます。

外来化学療法の研修

朝礼

8:00

カルテや医療用アプリで
担当患者の情報を最終確認

8:15

薬剤師外来

8:30

血液検査の確認
ミキシング前の最終チェック

10:00

薬剤管理指導業務

11:00

昼休憩

12:00

SOAP入力

13:00

抗がん剤の処方監査・検閲業務

14:00

次回の担当患者の予習

15:00

指導薬剤師と1日の振り返り

16:00

日勤業務終了

16:40

抗がん剤の処方監査で、論文を提示し、投与量の変更を提案できました

専門領域で描く未来

感染制御

新たな感染症、薬剤耐性菌への対応が急務となっている中、薬剤師がICT（感染制御チーム）、AST（抗菌薬適正使用チーム）で専門領域の力を発揮するための人材育成に力を入れています。

緩和ケア

身体的、精神心理的、社会的、スピリチュアルな痛みが複雑に絡み合い、私たちはそれを痛みと表現します。その痛みを和らげ、その人らしく最後まで生ききるため、一緒に様々なことに挑戦してみませんか？

化学療法

PBPM、薬剤師外来、スマホアプリ等の活用を通じ、適切な治療選択や副作用対策に貢献してきました。医師からのタスクシフトをさらに進め、薬剤師による化学療法のトータルマネジメントを実現します。

精神科

精神疾患を持つ患者さんの薬物治療の介入はもちろんのこと、多職種と連携し社会復帰へサポートを行います。今後はリエゾンチームに同行し、薬学的観点からサポートしていきたいと考えています。

様々な専門領域がある中で、認定・専門を取得した薬剤師は、どのように業務を発展させていくか。これから取得を目指す分野の薬剤師は、どのような未来を描いているのか。今後の展望をご紹介します。

妊婦・授乳婦

妊婦授乳婦薬物療法認定取得後は、入院患者への服薬指導や質問対応だけでなく、産科外来での薬剤師によるカウンセリングの場も設けられればと考えています。妊婦授乳婦の方々の不安に寄り添い、知識を生かしたより深い介入を行っていききたいです。

糖尿病

入院中だけではなく外来での継続的な介入を通して、患者さん自身が血糖のマネジメントをしていけるよう支援していきます。日本糖尿病療養指導士および糖尿病薬物療法認定薬剤師の取得を希望されている方へは、書類作成や症例収集など全面的にサポートします。

タスクシフト・効率化

当院では調剤助手（ファーマクルー）を多数採用し、様々な業務を補助してもらっています。そのため、**薬剤師でなければならない業務に専念**でき、より多くの時間を臨床に費やすことができます。

また、自動錠剤分包機や錠剤一包化鑑査支援システム（MDM）、注射薬自動払出装置（アンブルピッカー）などの調剤補助システムを複数導入し、業務の効率化を図っています。

クルーさん 大活躍

ファーマクルーから ひと言

薬剤部の業務は多岐にわたります。特に薬剤師は患者さんとの関わりがとても重要だと感じています。そのため、我々ファーマクルーが様々な業務をサポートすることで、薬剤部として当院の医療の質向上につながると自負しています。



▲ 一包化業務の補助



▲ 錠剤一包化鑑査支援システムの補助



▲ アンブルピッカー

ファーマクルーが担う主な業務

調剤クルー

計数調剤補助
持参薬カウント・入力
再調剤
返品薬の仕分け・入力
返品薬再利用の補充
在庫管理・発注
製剤室補助

注射クルー

注射調剤補助
注射薬払い出し
在庫管理・発注・検品
手術室薬品カートの補充

ケモクルー

抗がん剤調整補助
在庫管理
外来化学療法受け付け
ミキシングルーム内での補助
医療用アプリの補助
資料作成・統計業務



▲ 最終鑑査支援システム（F-AUDIT）で照合



▲ 注射薬カートにセット

◀ MDMは一包化された薬剤の内容を自動的にチェックする機械で、問題個所のみ知らせくれる仕組みです。そのため、薬剤師の検閲業務の負担軽減と、調剤過誤リスクの低減に寄与しています。

薬剤師の業務

内服・注射調剤業務

内服薬は、処方箋に基づいて用法・用量、相互作用や重複投与などがないかを確認し、必要時に医師に問い合わせをして調剤を行います。安全・迅速にお薬をお渡しするために、調剤機器を使用するだけではなく、1つの処方を複数の薬剤師でチェックしています。

注射薬は、処方箋に基づいて投与量、投与期間、配合変化、ルートなどを確認し必要時に医師に問い合わせます。注射薬自動払出装置や計数調剤管理システムを使用し、患者さんごとに1日分の注射薬をセットして病棟に払い出しています。

注射薬混合業務

抗がん剤の調製では、職業被曝を防ぐために安全キャビネットクラスⅡタイプB2やCSTD（閉鎖式薬品移送システム）を使用しています。また注射薬混注監査システムを用いて調製ミスがないかを確認し、複数の薬剤師で確認することで安全性を確保しています。

入院や在宅で使用されるTPN（中心静脈栄養法）の調製は、クリーンベンチ（菌などが入らないように調製できる装置）を用いて行っています。

院内製剤業務

院内製剤は、多様かつ個別の医療ニーズに対応するために、医療法のもと医療機関の責任下で調製されている製剤です。当院でも安全安心かつ適切に院内製剤を調製し使用しています。

医薬品情報管理

医薬品情報は開発、製造、使用などあらゆる過程で存在します。多種多様な情報の収集、評価、提供、管理を行い、病院全体で薬剤が適正に使用されるための体制構築や教育などを担っています。

入院支援センター

手術を行う患者さんには、術前に休止が必要な薬剤を服用している症例が少なくありません。きちんと休薬しなかったために手術が延期される事態を未然に防ぐため、入院前に薬剤師が患者さんに介入し、サプリメントを含めた常用薬の確認を行っています。

病棟業務

患者さんが入院後、薬剤師は服用していたお薬の確認や評価、副作用歴・アレルギー歴などの情報を収集し、必要な情報をスタッフ間で共有しています。内服薬、外用薬、注射薬など全ての医薬品の使用状況を確認し、ベッドサイドで適切に医薬品が使用されているか評価を行います。そのうえで、医師・看護師などへの医薬品の情報提供、医師への処方提案や検討、患者さんへのお薬の説明などを行います。

回診への同行、各病棟やNST（栄養サポートチーム）などのカンファレンスへの参加、糖尿病教室の開催、感染制御チーム・抗菌薬適正使用支援チームや緩和ケアチームへの参加など、多職種と連携して入院患者への薬物療法をサポートしています。



■糖尿病教育

糖尿病領域において、糖尿病療養指導士の資格を有するスタッフが中心となり患者さんの指導を行っています。糖尿病教育入院もその一環で、1週間の入院スケジュールの中で薬剤師が糖尿病の薬物療法について集団講義を行っています。さらに患者さんのベッドサイドまで伺って個別指導を行い、服薬アドヒアランスの向上と良好な血糖コントロールに寄与しています。

チーム医療

精神科領域、NST、緩和ケア等のカンファレンスや、地域包括ケア会議に参加し、多職種と連携してチーム医療に貢献しています。当院薬剤師が中心となって発足したがん悪液質対策専門チーム「チームアナモレリン」もその1つで、多くの患者さんを救っています。

外来化学療法・薬剤師外来

治療歴や抗がん剤の処方箋に基づき投与量・投与時間・支持療法薬、検査値のオーダーを確認し、必要に応じて医師とレジメンの内容や投与量の確認や検討を行います。
患者さんとの面談（薬剤師外来）を通して抗がん剤のお薬の説明や評価、副作用の対策薬の処方提案を積極的に行っています。

■薬剤師外来

薬剤師は医師の診察前に面談を行っています。医療用アプリを活用し、患者さんから聴取した情報や疑われる副作用、処方提案などを医師への情報提供シートに記載します。
また、PBPMに従って診察前に処方を代行入力することで、医師のタスクシフト・シェアに貢献しています。



■PBPMとは？

プロトコルに基づく薬物治療管理のことで、薬剤師が医師と事前に作成・合意されたプロトコルに基づき実施する業務です。当院では外来がん化学療法患者に対してプロトコルを活用し、早期の副作用対策や医師の負担軽減などで一定の成果を挙げています。

薬薬連携

地域の保険調剤薬局の薬剤師と病院薬剤師の連携を『薬薬連携』と呼んでいます。
会津地域において、当院を事務局として「会津薬薬連携協議会」を発足し、地域包括ケアの推進に向けた様々な取り組みを行っています。

フィジカルアセスメント

聴診器、簡易心電図、医療用ペンライト、パルスオキシメーターなどを使用してフィジカルアセスメントを行うことで、副作用の確認や処方提案の検討を行っています。



- 聴診器を使用したイレウスのチェックや下剤の検討、間質性肺炎の徴候や胸水の確認
- 簡易心電図計を使用した心疾患の有無の確認
- 医療用ペンライトを使用したオピオイドの適正使用量の確認

治験

治験とは、「薬の候補」を用いて国の承認を得るために行う試験です。患者さんが安心して治験に参加できるように治験コーディネーター（CRC）として参加しています。

実務実習生への教育

薬学部では5年時に11週間病院で実習を行います。薬学生は病院で調剤業務、医薬品管理業務、病棟・外来薬剤管理指導業務などを学びます。当院では積極的に実務実習生を受け入れることで、将来の薬剤師の育成に尽力しています。

■当院での実務実習生の症例発表例

- 『免疫チェックポイント阻害薬使用における甲状腺機能低下症の早期発見と治療』
- 『治療開始前に骨髄抑制を伴った進行膵癌の一例』
- 『通院自己中断歴のある2型糖尿病患者の治療継続に介入した一例』
- 『化学療法継続のための口内炎予防及び治療』

認定・専門薬剤師

当院は、総合病院という様々な症例を経験出来る強みがあり、単位取得のための講習会等への参加を推奨するなど、取得を目指す薬剤師を支援しています。

- ・がん指導薬剤師
- ・外来がん治療専門薬剤師
- ・がん薬物療法認定薬剤師
- ・感染制御認定薬剤師
- ・抗菌化学療法認定薬剤師
- ・精神科薬物療法認定薬剤師
- ・緩和薬物療法認定薬剤師
- ・日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本リウマチ財団登録薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
- ・NST専門療法士
- ・糖尿病療養指導士
- ・パーキンソン病療養指導士
- ・スポーツファーマシスト

その他、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師などを
目指して、若手薬剤師が研鑽を積んでいます！



日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業 日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修病院

当院は「日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業」研修施設に認定されています。がん薬物療法認定薬剤師を志す他院薬剤師の受け入れを行うほか、当院で3年間がん薬物療法に従事した薬剤師は認定試験の受験資格を得ることが出来ます。さらに「日本臨床腫瘍薬学会（JASPO）がん診療病院連携研修病院」の研修施設にも認定されました。がんに関する専門的な研修を提供できる病院です。



学会発表実績



当院薬剤部では各薬剤師が研究テーマを持ち、学会発表等の学術活動を積極的に行っています。

日本医療薬学会
日本癌治療学会
日本緩和医療薬学会
日本病院薬剤師会 東北ブロック学術大会
日本臨床腫瘍薬学会学術集会
日本臨床腫瘍薬学会学術大会 など

交通費・宿泊費を財団で負担

当院では学会発表や参加を推奨しています。
交通費・宿泊費は出張費として財団から支給され、振替休日も付与されます。

先輩薬剤師の声



成田 浩気

2018年入職
星薬科大学 卒
東京都 出身

■日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師

外来がん化学療法チームに所属し、外来で化学療法を施行する患者さんに対してがんの治療だけでなく、今まで通りの生活が不安なく送れるようにサポートをしています。また、緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得したため、それを生かして業務を行っていきたいと考えています。

学会への参加など認定取得に必要な支援体制もしっかりしていますので、認定取得を目指している方はぜひ一緒に働きましょう。



河原 史明

2012年入職
星薬科大学 卒
栃木県 出身

■日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師として外来化学療法の業務を中心に行っています。当院は薬剤師数が特に多い病院ではありませんが、たくさんの非薬剤師スタッフに支えられ、薬剤師としての職能を活かせる業務に専念できる環境が心地よく、県外出身ですが10年以上勤務しています。医師や看護師、管理栄養士、理学療法士、公認心理師等との協力関係も良好で、先進的な取り組みの中で患者の薬物療法に貢献できているという実感に満ちた日々を送っています。



金子 美知子

2008年入職
東北薬科大学 卒
福島県相馬市 出身

入職して16年経ちますが、育休を3回取得しています。現在は主にDI室で問い合わせの対応やDIニュースの作成等を行っており、臨床治験委員会にも参加しています。

育児と仕事を両立させるのは大変なときもありますが、子供から教えられることはたくさんあり、薬剤師としていろいろな経験を積める環境は充実しています。



大堀 徹

1984年入職
明治薬科大学 卒
福島県会津若松市 出身

■日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師
■日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師

感染防止対策を行うICT（感染制御チーム）とAST（抗菌薬適正使用支援チーム）に薬剤師として所属し、感染防止対策と抗菌薬適正使用に携わり、感染防止対策、患者予後の改善に貢献しています。

今、薬剤師の感染症と抗菌薬に関する知識が臨床の現場で求められています。まさに薬剤師の職能が直接発揮される場所です。

修学資金貸与制度

薬剤師を志向する大学薬学部 of 学生を対象に、月々修学資金を貸与して経済的に援助する制度です。

将来、当財団に勤務して地域医療を担おうとする優秀な薬剤師の養成及び確保を図ることを趣旨としています。

貸与額：10万円／月

■対象者 **大学の薬学を履修する課程に在学（入学手続き中の方を含む）しており、将来、当財団で薬剤師として勤務することを誓約する方**

※大学卒業後1年以内に薬剤師免許を取得し、貸与期間と同じ期間、当財団で薬剤師として勤務すれば、全額を返還免除とします。

修学資金貸与制度
ホームページ



奨学金返済補助制度

奨学金を借りている薬剤師を対象に、月々補助手当を支給する制度です。

補助手当額：9万円／月、108万円／年（最大5年間）

■対象者 **当財団で勤務する薬剤師（入職後から支給）**

※受給年数の2倍の期間、勤務を継続すれば、全額を返還免除とします。

例）奨学金の返済残額が300万円の場合

1年間の支給額は、月額9万円×12カ月＝108万円です。
300万円÷108万円≒2.7年となり、1年未満を切り上げるため、最大受給年数は3年間となります。
3年間受給する場合、2倍の6年間勤務すれば全額が返還免除となります。

法人事務局
お問い合わせ先



病院見学会

竹田綜合病院薬剤部では、病院見学者を随時募集しております。
遠方でも交通費は当財団が負担しますので、先輩の勤務している様子を見たい、
卒後教育について知りたいなど、この機会に当院を直接感じてください。

日時

随時開催
(希望日に合わせて日程調整いたします)
※交通費支給あり(遠方でも全額負担)

内容

病院の概要・待遇説明、院内見学、昼食会
薬剤部の概要説明、薬剤部見学、質疑応答

申込方法

メールまたは電話にて受付いたします。
お気軽にお問い合わせください。

見学会のタイムスケジュール

11:00 病院概要など説明
11:15 院内見学
11:45 昼食会
13:00 支援制度の説明
13:15 薬剤部の概要説明
15:00 薬剤部を見学
15:30 終了予定

【お問い合わせ お申し込み】

〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3番27号
一般財団法人竹田健康財団 法人事務局 人材開発課

●TEL 0242-29-9893
●FAX 0242-27-5670
●E-mail jinji@takeda.or.jp
●HP <http://www.takeda.or.jp>



◀募集要項

薬剤部HP▶



アクセスマップ



列車でお越しの方

東京駅 東北新幹線 所要時間 約80分 郡山駅 会津若松駅 竹田綜合病院
仙台駅 東北新幹線 所要時間 約40分 会津若松駅 バス(市内2コース 約15分) タクシー(約10分)

お車でお越しの方

川口JCT 東北自動車道 所要時間 約150分 郡山JCT 会津若松IC 竹田綜合病院
仙台宮城IC 東北自動車道 所要時間 約90分 会津若松IC R121→R49→R118 所要時間 約20分
三郷JCT 常磐自動車道 所要時間 約120分 いわきJCT 会津若松IC 竹田綜合病院
新潟中央IC 磐越自動車道 所要時間 約90分 会津若松IC 竹田綜合病院

高速バスでお越しの方

新宿駅南口 所要時間 約270分 会津若松駅前 バス(市内2コース 約15分) タクシー(約10分) 竹田綜合病院
仙台駅東口 所要時間 約150分 鶴ヶ城・合同庁舎前 徒歩5分 竹田綜合病院
新潟駅前 所要時間 約110分 会津若松IC 竹田綜合病院
いわき駅前 所要時間 約90分 郡山駅前 所要時間 約70分 鶴ヶ城・合同庁舎前 徒歩5分 竹田綜合病院
福島駅前 所要時間 約80分 鶴ヶ城・合同庁舎前 徒歩5分 竹田綜合病院



福島県西部にある会津地方は、四方を山に囲まれているため、夏は蒸し暑く、冬は雪が降る盆地特有の気候を有しています。猪苗代湖や五色沼、磐梯山など自然豊かで、四季の移ろいを感じることができます。

会津

歴史と文化のまち
四季に彩られて



鶴ヶ城を代表とする城下町で、東山温泉などの温泉街があり、会津漆器や会津木綿、赤べこ、絵ろうそくなどの伝統・文化も息づいています。

肥沃な大地や豊かな水に恵まれ、おいしいお米やお酒などの農作物・名産品が多く、喜多方ラーメン、ソースカツ丼、馬刺しなどの食文化も堪能できます。

会津若松市内には、大型ショッピングセンターやスーパー、ドラッグストア、コンビニなどが多数あり、コンパクトにまとまった地方都市で利便性は高いです。



冬でも街中の降雪はさほどでなく、除雪作業もしっかり行われるため、通勤や生活に困ることはありません。むしろ、近場でウィンタースポーツが楽しめるというのが魅力の1つです。



募集要項

■募集定員 薬剤師 15名（2026年4月採用）

■選考方法 小論文、適性検査、面接

■提出書類 下記の書類を郵送または持参してください。
①履歴書(写真添付) ②成績証明書 ③卒業(見込)証明書
④健康診断書(学校で実施した健診結果のコピーで可)
⑤薬剤師免許証(すでに取得の方のみ)

■応募受付 **採用試験：2025年3月27日(木)**
応募締切：2025年3月20日(木)必着
※応募者に採用試験の詳細を連絡します。

■待遇 ①給与 ※既卒者は経験考慮のうえ決定

年俸制（毎月20時間の固定残業代含む）	
初年度	4,020,000円/年（335,000円/月）
入職5年目	6,000,000円/年（500,000円/月）
入職15年目	7,200,000円/年（600,000円/月）

- ②その他の手当 通勤手当(3km以上より支給)
③給与改定 年1回(毎年4月)
④賞与 無(年俸に含む)
⑤退職金 給与規定により支給(勤続3年以上より)
⑥休日 第1・2・4・5土曜日、日曜日、祝日(診療日を除く)、
年末年始(12月30日～1月3日)、その他法人が指定する休日
(月単位の変形労働時間制を採用)
⑦休暇 年次有給休暇(初年度15日間、最高25日まで)、慶弔休暇
⑧勤務時間 8時20分～17時00分(当直あり)
⑨福利厚生 各種社会保険(健康・厚生・雇用・労災)、育児休業、介護休業、
院内保育所(24時間)、各種クラブ活動、医療費補助制度
⑩奨学金補助制度 **奨学金返済補助手当あり** 9万円(税込)/月
(最大で5年間補助いたします！)
なお、勤続年数に応じて返還免除があります。

■教育・研修 院内・院外研修及び研究発表などを積極的に実施
能力開発ガイド「エンハンス」による通信教育(補助あり)
公的資格祝金制度あり

■勤務地 竹田総合病院、山鹿クリニック、芦ノ牧温泉病院

竹田綜合病院 薬剤部

TAKEDA general hospital Department of Pharmacy

Mission

- **患者**のために

- **私たち自身**のために

- そして**私たちの生活**のために

Vision

- 私たちは、患者の**医療への援助**を最優先に考え、個々のスキルアップを通じて**専門性を高め、ライフワークバランスを保つ**ことで、私たち一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を創り出します。